

割栗地業と底盤(フーチング)の断面不足

年度	1994年完成(2009年調査)
場所	茨城県神栖市
構造	木造在来軸組工法
階数	2階
延べ面積	136 m ²
用途	一戸建ての住宅

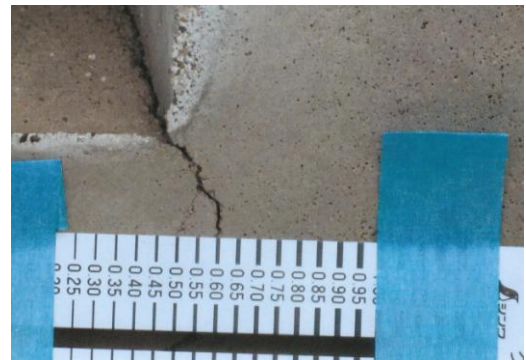
瑕疵の特徴

1. 割栗石の厚みが、設計図記載の寸法に対して不足している。更に、割栗石は小端立ではなく、間はスカスカ状態となっている。(写真1)
2. 基礎底盤の厚みが、設計図記載の寸法に対して不足している。更に、厚みは不均等で、基礎底盤の形状を有していない。(写真1)
3. 外周すべての面の基礎に亀裂が入っている。(写真2)

写真1



写真2



解説

割栗石は、小端立に密にはり込み、目つぶし砂利を充填して転圧しなければならない(小規模建築物基礎設計指針9.2節(地業)1(2)ii)、公庫仕様書3.2.1(割栗地業)を参照)。しかし、実際には、割栗石を横に、スカスカ状態に敷き並べ、割栗石の間には目つぶし砂利の充填も見られない。

基礎底盤は、厚みの不足に加え、施工時に型枠の設置も省いたため、設計図記載の形状を有していない。

外周部の基礎立上り部分には、既に、至る所に幅0.6mmもの亀裂が入り、1・2階の床には水平不良が起きている。